

サンビオティック農業通信

<http://www.sunbiotic.com>

● 鹿児島ビワ革命的玉太り！サンビオで、かつてない大きさビックリ新記録！



最高級！2Lサイズのビワが鈴な

サンビオティックファーマーでご紹介したビワの全国的な指導者であり、生産者でもある有馬会長のサンビオティックビワが今までに見たこともない素晴らしい生育で、周囲の農家さんや農協の担当者を驚かせています。

左は、今収穫中の有馬会長のビワです。ビワ農家の方なら、この素晴らしさが分かるかと思います。まるまると太ったビワ。ビワは大きいほど高く売れますが、今年の有馬会長のビワは、**Lサイズ以上の割合が、なんと93%**（2L：37%、L：56%、M7%）もありました！一般の農家さんはLサイズ以上は、40%程度で、良くても60%といえますから、これは驚異的というより、**革命的な記録**です！（品種は一般的な茂木種長崎早生）



Lサイズ以上がなんと93%！！

しかも、よく見てください。一本の果梗枝から5つも大きな実がなっています。通常は3つくらいで、5つもさせると、大きくならないか、枝が折れてしまうそうです。サンビオティック栽培では、素晴らしい太い果梗枝がでてくるので、大玉のビワが5つなっても耐えられるということです。本年、サンビオティック栽培を行った、全ての園で大玉傾向が確認され、これは産地ブランド化に大きく貢献することができる、と強い手ごたえを感じました。

有馬会長の栽培によると、サンビオティック栽培では次の特徴があり、大玉で糖度・食味も良好なよいビワの収穫につながると言います。

1. 発根がよく、葉が厚くテリが良い。
2. 太い新梢が上がり、花がすっかり隠れるほど葉が立つ。
3. 果実肥大は初期から良く、L玉以上比率が大幅に向上する。

ちなみに、農協の担当営農課長に伺ったところ、これほどの大きなビワをならせることは、剪定や栽培技術だけではできない、とのこと。**微生物資材と肥料がしっかりと効いた結果だろう**との結論でした。

また、右の写真の通り、これだけの大きなビワがなっていないながら、次々ときれいな新葉が展開してきており、隔年結果も心配はなさそうです。菌力アップによる発根が、樹の体力をしっかりと支えています。

左下は、昨年サンビオティック栽培を始めた近隣の農家さん。実は、圃場の条件が悪く、Mサイズより大きなビワができないと悩んでい



ました。そこで、昨年サンビオティックを導入して、なんと**今年はL～2Lサイズが中心だ**そうです！

これまで長年悩んできた大きな問題が一気に解決して「**おかげでよかった！**」と満面の笑顔です。サンビオティック農業で、鹿児島のビワが続々と変わっていくことが期待される大きな実りでした。

ちなみに、使用したサンビオティック資材は、菌力アップ、糖力アップ、鈴成で、詳しい栽培基準がお知りになりたい方は、ご連絡ください。



鹿児島県農協果樹部会連合会理事
桜島町琵琶振興会会長の有馬さん



きれいな新葉が次々に展開

● **ゴーヤー菌力アップで収量もアップ！鹿児島県全JAに普及！**



昨年から **鹿児島県経済連、鹿児島大学農学部**と行っていた**サンビオティック栽培による産学協同研究**の成果が、3月19日南日本新聞、3月25日日本農業新聞に掲載されました。

試験研究の結果、**ネコブセンチュウのいる圃場での対象試験で、試験区が14%増収(216キロ/反)**という**好成績**を収めました。鹿児島大学の研究では、ネコブセンチュウがいるにも関わらず、これだけの収量アップがあったのは、健全な発根と、植物のもつ抵抗性が引き上げられた結果だろう、との見解でした。

この試験結果を受け、鹿児島県経済連では鹿児島農協全県会議で、研究結果の周知と普及についての報告を行いました。これから、鹿児島ゴーヤーにサンビオティックが普及することになります。

早速、今回協同研究の試験農家となったゴーヤー部会長の田中さんの圃場では、現地検討会が行われ、確かに生育がよいと、近隣の農家さんが見学にいられています。

現在、田中さんの圃場は2月末に定植したゴーヤーを栽培中で、**発根がよくマルチをはぐと地表に根がたくさん見られること、大きなしっかりした花が上がっている**ことなど、近隣農家さんも感心しておられました。



これから熱くなってくると、全国的に人気が高まるゴーヤー。鹿児島の南国ゴーヤーに、サンビオティック栽培が続々と導入されることになります。ますます安全性が高く、ミネラルやビタミンがたっぷりのゴーヤー生産を、サンビオティックが応援します！！



● **サンビオティック3年目。年々良くなる土、ますます元気になるみかんの木。**



サンビオティック栽培3年目のみかん



昨秋からサンビオティック栽培を始めたみかん

今年は、みかんは裏年で不作の年です。ちらほらとみかんの花もつぼみを膨らませる季節ですが、昨年に比べて花がとても少ないですね。しかし、サンビオティック栽培のみかんは、他のみかんに比べてやはり花が多いようです。上の写真は、鹿児島早生のみかんの花。左はサンビオティック栽培が3年目に入るみかんの様子です。少ないながら、しっかりした花が着いています。右は、昨年の秋から始めたみかん。花がほとんど見えません。葉の色、新葉の展開も違います。

サンビオティック栽培は、継続してやることで、年々効果を上げていきます。微生物の豊富な土壌環境ができ、団粒構造化が促進されます。また、それにより樹も年々元気に、若々しくなっていくようです。隔年結果も軽減されることが、写真からも分かりますね。果樹にはぜひサンビオティック！

● アスパラガス増収の決め手はサンビオティック。近隣農家の羨望を集めています。



長崎県西海市でアスパラガスを生産されている相川さん。「今年はいいいよ！」と笑顔で会社にいらっしやいました。「どうしたんですか？」と聞くと、「**今年はアスパラガスは超不作の年よ。でもサンビオティックの畑はよかばい!**」
部会でも**アスパラ農家の多くは3～4割の収量ダウン**だそうです。天候のせいでしょう。しかし、相川さんは、昨年並みの収量を確保しているそうです。**サンビオティック栽培の農家さんは、いずれも平年並みか、増収**している方もいらっしやるとか。すごいですね！単価が上がっていますから、平年並みでも収入は大きく増えることになります。

「**相川さん、それじゃあ儲かって仕方ないですね**」という「いやいや」と嬉しそうに笑っていました。

部会のサンビオティック栽培の畑を見て、驚いたのは近隣の農家さん。私もやりたい！とやる気マンマンです。「少しでも早く始めたほうがいいですよ。収入に直結するやり方ですから」と、栽培基準書を渡しながらかお話しました。来年は、きつともっとたくさんのアスパラ農家さんの笑顔が見れるといいですね。



● デコポンの本場熊本県で本格試験始まる。注目の糖度アップ + 減酸試験！

昨年から鹿児島県で行われた、デコポンの減酸および糖度アップの試験は、好成績を収めました。糖度で1度以上、減酸0.05を実現する技術として自信を深めています。

さて、鹿児島の試験結果を聞き及んだデコポンの本場熊本県では、ぜひ導入試験をしたい、との問い合わせがありました。デコポンは、人気の高い果物ですから、糖度が上がり、減酸コントロールができるとなると、農家の収入メリットもかなり大きな作物です。

これまであらゆる農業資材を試したが、糖度アップを実現した資材はひとつもないそうです。サンビオティックには試験実績がありますから、データを見て「早速やりましょう」ということになりました。

確かに果樹で糖度を上げることは、革命的なことといえます。しかし、タイミングよく根を張らせる事と窒素やリン酸を効果的に効かせること、そして糖蓄積の時期に吸収の良いアミノ酸やミネラルをしっかりと吸わせることで、実現可能な技術です。

これからさらに、この技術に磨きをかけ、熊本・鹿児島・長崎のデコポンのさらなるブランド化にサンビオティックの全力を傾けて行きたいと思えます。



● ● ● 編集者より 巻末ご挨拶 ● ● ●

みなさんお元気ですか？春の日差しも日に日に増して、汗ばむ陽気になってきましたね。野菜の定植もそろそろ終盤でしょうか？これから夏に向けて、豊作を祈りながら農作業をされていることと思います。春の紫外線、日射病に注意して、がんばりましょう！